

# AJP PRESS

ASIA JOINT-DEGREE PROJECT

2015.WINTER | Vol. 09

# 第9回国際セミナーを開催

2014年10月20日(月)、東北大学文科系 総合研究棟11階大会議室にて、(台湾より) 湯志民院長(国立政治大学・教育学院)、 陳榮政准教授(国立政治大学・教育学院)を 招き、国際セミナー「International Trend of Student Mobility in Taiwan」を開催しました。

セミナーでは、湯志民院長より国立政治 大学の国際化状況について概略が紹介さ れました。全学として国際化を推進しており、 国内学生の海外派遣・留学生の受入れ実 績も増加傾向にあります。東北大学大学院 教育学研究科と交流を進めてきた国立政 治大学教育学院も国内において国際化を 推進するGood Practiceに選定されるなど、 積極的に改革を行なっています。英語によ る授業開講や国際会議の招致、学生の海外 交流、短期海外研修など様々な角度から海 外との接点を生み出していました。また現 職教員を対象とした研修における海外視 察プログラムの紹介があり、国際的教育指 導者を目指す我々のプログラムの在り方に も示唆的な報告でした。



湯志民院長



陳榮政准教授は、国際的な学生移動において台湾が現在どのような位 置づけにあり、今後どのような方向に向かうのかについて具体的数値をあ げながら報告されました。東アジアの学生は留学先にアメリカ、イギリス、 オーストラリアなどの英語圏を選ぶことが知られており、この傾向は台湾 においても同様だといいます。台湾では英語圏とともに人気の留学先とし て日本があげられています。また台湾を訪れる留学生の国別統計では、日 本、アメリカ、韓国が上位を占めており、日本との交流が数にも表れていま した。この背景には、大学・研究機関が締結した学術交流協定の増加があ ると指摘します。近年では欧米よりアジアとの学術交流が増加しています。





セミナー風景

セミナーのディスカッションでは、台湾では日本からの大学院生(学 位プログラム以外も含む)の留学生数が増加していることが紹介され、 現在我々がすすめる Asia Education Leader Course の意義が改めて 確認されるとともに、今後は学部レベルでの交流がその前段として大 事になってくるなどの意見が出されました。

今後もこうしたセミナーを定期的に開催することで、国境や専門分 野を越えた研究者および学生同士の意見交換を行う機会を設け、継 続的な交流を実現して参ります。



東北大学大学院教育学研究科アジア共 同学位開発プロジェクトは、2014年12月21 日(日)に、東北大学文科系総合研究棟11階 大会議室(宮城県・仙台市)において、国際シ ンポジウム「国際的共同学位における質保 証ーカリキュラムと評価を考える」を開催い たしました。

このたびの国際シンポジウムは、2014年 度より開始した AEL Course の実践から得ら れた課題をもとにテーマを設定しました。具 体的には、留学に伴う国際的な単位互換・成 績評価の課題、そのベースとなる学位プログ ラムの質保証アプローチの国際的な共有化 の動向と共同学位開発に向けた質保証をい かにおこなっていくかについて、実践的な側 面から探求することを目指しました。シンポ ジストには、国際的共同教育を構想され実 践されている、平山祥郎教授(東北大学)、山 本ベバリーアン教授(大阪大学)、Dr. Aishah Binti Abu Bakar (マラヤ大学、元マレーシア 教育省高等教育局アカデミック開発管理課 長)をお招きし、それぞれの立場からカリキ ュラムと評価の問題そして、国際的共同教 育のあり方について報告していただきまし た。指定討論者としてお招きした小尾晋之介 教授(慶應義塾大学)には近年法整備が進 むジョイント・ディグリーの動向と合わせ、 シンポジストとのディスカッションを展開し ていただきました。

シンポジウムでは、まず本郷一夫研究科 長より、アジア共同学位開発プロジェクトの 趣旨や、AEL Course運営で浮き彫りとなっ た課題と今後の質保証のあり方を求めた本 シンポジウムの意義についてお話がありま した。

続いて、平山祥郎教授(東北大学)より、 「東北大学スピントロニクス国際共同大学院 プログラム」について報告がありました。本 プログラムは、2014年度から文科省概算要 求予算によって開始されたプログラムで、リ ーディング大学院やスーパーグローバルユニ バーシティ創成事業としても位置付けられて います。博士課程を対象とした国際共同スピ ントロニクス大学院を設置し、世界で活躍す るスピントロニクス博士人材の育成を目指し ています。博士学位の授与条件としては、ス ピントロニクス分野の総合的知識を有する とともに、自立して研究ができる能力を有す ること、海外長期(6カ月以上)研究インター ンシップを経験すること、学位論文は英文と して公開での口頭試問も英語で行なうこと が挙げられています。さらに、学位論文提出 時に、国際学術誌に英文筆頭論文が2編以 上掲載、または受理されていることが望まし いとされており、アウトプットも明確に設定 されています。この前段として修士課程との カリキュラム接続も意識しており、大学院改



本郷一夫研究科長



革も合わせたプロジェクトであると報告があ りました。平山教授は、学生・教員に過負荷 にならないカリキュラムのあり方、各専攻で のカリキュラムの違いをどう調整するか、長 期海外インターンシップの奨学金をどう確保 するか、事務のグローバル化をどう進めるか、 プログラムや覚書ができたことによって逆に 自由な研究交流が束縛されないようにする ことなどの課題を指摘しました。

山本ベバリーアン教授(大阪大学)は、大 阪大学においてグローバル30プログラムの 統括を担当し、カリキュラムの質保証ハンド ブックを作成し学内FDなどで活用するなど、 実践的にカリキュラムの質保証に取り組ま れてきました。山本教授は「国際共同教育に おける教育方法と評価一大阪大学の実践か ら一」と題し、大阪大学の事例をもとに国際 的共同教育における質保証について検討い ただきました。冒頭、イギリスにおける教育 の質(quality)と水準(standards)の定義を 確認され、コース全体の質を高めるために は各学年の学習成果の設定、卒業時に持つ べき能力を吟味したうえで、国際的な基準 がどのように設定されているのかベンチー マークし位置づける必要があることを述べ ました。その上で、学生評価においては、複 数の評価者間での評価の一貫性を保つべく、 モデレーション・ミーティングの導入を提案 されます。これはFDとしての機能もあり、シ



ラバス、ルーブリック、学牛の提出物などを 連関させる役割があります。大阪大学の事 例は学部を対象としたものですが、大学院 の科目設定にも適応できるのではないかと 指摘しました。



Dr. Aishah Binti Abu Bakar (マラヤ大学) からは、ASEAN域内連携(AIMS)の動向を 通して、域内連携が実践するカリキュラム例 と評価指標などをご紹介いただきました。 「AIMS - ASEAN International Mobility for Students - Curriculum Management」と 題 された報告では、AIMSは、2010年に開始し た、マレーシア・インドネシア・タイの各国政 府共同による学生交流支援事業です。2015 年までの「ASEAN共同体」に資する学生交 流メカニズムの開発、国にとどまらず国際的 な視野をもった大学の育成・人材の輩出を 目的としています。2012年に、4番目の参加 国としてベトナムが加わり、「AIMS」に名称変 更され、2013年には、フィリピンおよびブル ネイが加わり、日本もこれに加わりました。 2015年には500万人の学生、10の研究分野、 10か国の参加を目標に運営されてきました が、2013年の時点で500万人の学生参加、7 つの研究分野、7か国の参加を達成してい ます。研究分野はホスピタリティ・観光、農 業、語学・文化、国際ビジネス、食品化学技 術、工学、経済学で、今後も拡大することで 合意しています。交流形態は、単位互換およ び認定としており、プログラムを通じて修得 した単位はアジア単位互換制度:ACTFA (Academic Credit Transfer Framework for Asia)の枠組みが採用されています。これは、 アジア開発銀行(Asian Development Bank)から財政支援を受けているもので、相

互認証、単位、成績の3つの要素から単位互 換を進める制度です。課題としては、受入 れ・送り出し数のアンバランスや地域ごとに 異なる物価に対応する奨学金の確保などが 挙げられていた。我々が進めるアジア共同 学位開発プロジェクトは東アジアのみなら ずASEANも将来的に視野にいれているた め本報告から得た示唆も多くありました。

指定討論者をお願いした小尾晋之介教授 (慶應義塾大学)からは、まずそれぞれのシ ンポジストからの報告に対する事実確認が ありました。指定討論者とシンポジストとの やり取りの中では、国際的共同教育を行な う場合、「レジリエンス」がキーワードになる こと、大学院プログラムではコースワークで はなく、修士論文や博士論文での質保証を

考える必要があるが、これをどう点数化する のかが課題になること、持続可能な奨学制 度のあり方、就職との接続などが論点として 浮上しました。

その後のフロアとのディスカッションでは、 国際的共同教育の質保証を考える際、これ まで高等教育が検討してきた質保証と異な る何かがあるのか、学生にとってのメリット をどうカリキュラムやプログラムに落とし込 んでいくのか、などについて意見が交わされ ました。こうした議論は、本プロジェクトのカ リキュラム構成に、大変示唆に富みました。 本シンポジウムを通じて、国際的視野をもつ た指導的人材を着実に育成できるような仕 組みを整えていきたいと考えております。



# ■国際シンポジウム次第

13:30~	開会の挨拶	本郷 一夫	東北大学大学院教育学研究科長
13:40~	講 演1	東北大学スピントロニクス国際共同大学院プログラム	
		平山 祥郎	東北大学 教授
14:10~	講 演2	国際共同教育における教育方法と評価 一大阪大学の実践から一	
		山本 ベバリー アン	大阪大学 教授
14:40~	講 演3	AIMS - ASEAN International Mobility for Students - Curriculum Management	
		Aishah Binti Abu Bakar	University of Malaya Senior Lecturer
15:30~	休 憩		
15:45~	指定討論	小尾 晋之介	慶應義塾大学 教授
16:15~	質疑応答・ディスカッション		
16:55~	閉会挨拶	上埜 高志	東北大学大学院教育学研究科 副研究科長

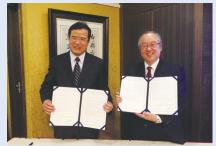


- ●AEL Course Summer Course 2014 2014年7月19日(土)~29日(火) 於:東北大学
- ●AEL Course Winter Course 2015 2015年1月19日(月)~2月6日(金) 於:国立政治大学

#### AELサマーコース2014

### 学術交流協定書および学生交流に関する覚書の締結

- ●2014年11月11日(火) 北京師範大学教育学部(中国・北京市)との学生交流に関する覚書調印式
- ●2014年11月14日(金) 東北師範大学教育学部(中国・長春市)との学術交流協定及び学生交流に関する覚書調印式



北京師範大学との調印式



東北師範大学との調印式

## 国際シンポジウム

●2014年12月21日(日) 国際シンポジウム「国際的共同学位における質保証ーカリキュラムと評価を考える (宮城県・東北大学文科系総合研究棟11階大会議室)

# Asia Education Leader Course Winter Course 2015の学生募集を行ないました。

アジア共同学位開発プロジェクトは、国際的視野をもった指導的人材を育成するため、2014年度より本格的にアジア教育指導者養成コース(Asia Education Leader Course)を運営しています。同コースは、東北大学大学院教育学研究科、国立政治大学教育学院(台湾)、国立台湾師範大学教育学院(台湾)、南京師範大学教育科学学院・心理学院(中国)、高麗大学校師範大学(韓国)の5大学6部局が共同運営するものです。各大学は、夏季および冬季の長期休業期間に交代で授業科目を開設し、学生は海外の大学へと移動しながら学ぶことになります。2014年7月には東北大学でAEL Course Summer Course 2014を開催しました。各連携大学では、2015年1月19日(月)から国立台湾政治大学で開催されるAEL Course Winter Course 2015に参加する学生の募集を行ないました。各大学から応募があり、16名が参加予定です。詳細はAEL CourseのWebサイトをご覧ください。

http://www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/aelc/top.html

